

プロジェクト課題活動実績

課題名：地域を支える法人の持続可能な営農体制づくりと経営発展

下関農林事務所農業部 チーム員：田中司、高林正典、梅木知佳子、宮崎隆平

<活動事例の要旨>

1 普及活動の課題・目標

集落営農法人では、経営の維持発展に向けて資源点検結果に基づく中期経営計画を策定する。また、今後の高齢化等へ対応していくため農事組合法人間もしくは株式会社等との連携体制構築を目指していく。

一方、攻めの農業を展開する株式会社や園芸作物生産者等では、JGAP認証等の活用や収量・品質向上等を図ることで、さらなる経営発展を目指していく。

このことにより、集落営農法人や株式会社・園芸品目生産者等を核とした持続可能な営農体制を確立し、もって菊川地区農業の活性化につなげていく。

2 普及活動の内容

(ア) 持続可能な営農体制づくり

- ・資源点検の実施により現状を把握し、将来の経営方針を明確化した中期経営計画を策定する。
- ・新たな労働力を確保するため、必要な業務量等を洗い出し、新規就業者等の雇用に向けて検討する。併せて、雇用者を法人後継者に育成する。
- ・地域の中核経営体の法人間連携により、持続可能な営農体制づくりを構築する。

(イ) 攻めの農業経営の推進

- ・「選ばれる農産物」として実需者と連携を図る取り組みを支援し、JGAP認証のメリットを明確化する。
- ・農場改善等による雇用の確保などのJGAP認証のメリットを周知することで新たな認証農場を育成する。
- ・キャベツ低単収法人等の管理改善を行うことで産地全体の出荷量の確保及び経営安定を図る。

3 普及活動の成果

(ア) 持続可能な営農体制づくり

- ・資源点検をモデル2法人において実施することとし、1法人では資源点検の後、今後の法人運営に係る課題出しと課題解決に向けたロードマップ作りを検討した。また、もう1法人では資源点検を実施し、今後、長期的な視点からの法人運営について協議していく準備を整えた。また、新たな構成員2名（親子）を確保できる見込みがたち、受入れ条件等の整備（定款変更等）を支援した。
- ・リンドウの栽培に取り組むモデル法人において、出荷体制の整備に向け収量・品質向上や集出荷体制の整備、生産者確保の検討等に取り組み、目標収量を確保するとともに、集荷便の運用や生産者拡大対策を実施していくこととなった。

(イ) 攻めの農業経営の推進

- ・ JGAP 認証法人における認定更新に向けた取組支援を行うとともに、実需者との連携を図るための対策について専門家による指導等を調整した。
- ・ 菊川地区の集落営農法人と株式会社の営農連携を目的として、同地区の法人が一堂に会した下関市集落営農法人菊川地区連携協議会を開催し、各法人の運営ノウハウや取組等について情報交換を行った。
- ・ 水稻の収量向上等による所得の最大化を目指し、水稻再生2期作を試行する株式会社の取組を支援した。
- ・ 加工・業務用キャベツにおける栽培指導や出荷・販売計画を検討し収量・品質向上に努めた。また、機械化モデル体型の普及・定着を目指しドローンによる防除実証を行うとともに、低単収法人における栽培管理の重点指導を行った。



資源点検結果の確認



JGAP 認証更新に向けた農場確認



リンドウ栽培ほ場



加工・業務用キャベツドローン防除実証

4 今後の普及活動に向けて

菊川地区農業の活性化に向けて、下記、5つの項目で取り組みを進めていく

- 集落営農法人での資源点検等を通じて、今後の法人運営のビジョンづくりを進める。
- 引き続きリンドウ出荷体制の改善や栽培体系の把握を行う。
- 株式会社4法人の栽培省力化や収益向上、新規就業者確保の支援、JGAPを推進する。
- 加工・業務用キャベツの適切な栽培管理を徹底し、目標反収の達成を目指す。
- 下関菊川地区連携協議会において今後の菊川地区における法人間連携について協議を進める。